

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	ゼミナール
科目基礎情報					
科目番号	0013		科目区分	専門 / 選択必修	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	建築学科		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	指導教員が指示する				
担当教員	篠部 裕, 泉 洋輔, 間瀬 実郎, 松野 一成, 大和 義昭, 仁保 裕, 岩城 考信, 下倉 玲子, 光井 周平, 安 箱敏				
到達目標					
卒業研究または卒業設計の手順を理解する。 研究論文の書き方を理解する。卒業設計の場合は、コンセプトの構想方法や図面の表現方法を理解する。 研究や設計の準備作業で得られた成果を報告書（研究レポートや図面）にまとめる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	卒業研究または卒業設計の手順をよく理解する。	卒業研究または卒業設計の手順を理解する。	卒業研究または卒業設計の手順を理解できない。		
評価項目2	研究論文の書き方をよく理解する。卒業設計の場合は、コンセプトの構想方法や図面の表現方法をよく理解する。	研究論文の書き方を理解した。卒業設計の場合は、コンセプトの構想方法や図面の表現方法を理解する。	研究論文の書き方を理解できない。卒業設計の場合は、コンセプトの構想方法や図面の表現方法を理解できない。		
評価項目3	研究や設計の準備作業で得られた成果を報告書（研究レポートや図面）に適切にまとめる。	研究や設計の準備作業で得られた成果を報告書（研究レポートや図面）にまとめる。	研究や設計の準備作業で得られた成果を報告書（研究レポートや図面）にまとめられない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この科目は、5学年で実施する卒業研究の準備段階として、配属された指導教員のもとで、専門的な分野における個別の学習テーマの研究や設計を行なう。当該研究室では特別研究・応用研究や卒業研究を行っている専攻科生や5年生からも指導を受けたり、共同作業を通じて、研究や設計の手順や手法を習得する。				
授業の進め方・方法	指導教員が指示する。				
注意点					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	指導教員や専攻科生・5年生によるテーマの説明	卒業研究または卒業設計の手順を理解する。	
		2週	指導教員の指導のもと、研究・設計テーマの設定	卒業研究または卒業設計の手順を理解する。	
		3週	指導教員のもとで研究・設計の実習	卒業研究または卒業設計の手順を理解する。	
		4週	指導教員のもとで研究・設計の実習	卒業研究または卒業設計の手順を理解する。	
		5週	指導教員のもとで研究・設計の実習	卒業研究または卒業設計の手順を理解する。	
		6週	指導教員のもとで研究・設計の実習	卒業研究または卒業設計の手順を理解する。	
		7週	指導教員のもとで研究・設計の実習	卒業研究または卒業設計の手順を理解する。	
		8週	指導教員のもとで研究・設計の実習	卒業研究または卒業設計の手順を理解する。	
	4thQ	9週	指導教員のもとで研究・設計の実習	卒業研究または卒業設計の手順を理解する。	
		10週	指導教員のもとで研究・設計の実習	卒業研究または卒業設計の手順を理解する。	
		11週	指導教員のもとで研究・設計の実習	卒業研究または卒業設計の手順を理解する。	
		12週	報告書作成	研究論文の書き方を理解する。卒業設計の場合は、コンセプトの構想方法や図面の表現方法を理解する。	
		13週	報告書作成	研究論文の書き方を理解する。卒業設計の場合は、コンセプトの構想方法や図面の表現方法を理解する。	
		14週	報告書作成	研究や設計の準備作業で得られた成果を報告書（研究レポートや図面）にまとめる。	
		15週	報告書作成	研究や設計の準備作業で得られた成果を報告書（研究レポートや図面）にまとめる。	
		16週	報告書作成	研究や設計の準備作業で得られた成果を報告書（研究レポートや図面）にまとめる。	
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	3	
			ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用できる。	3	
			現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。	3	
			現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。	3	
評価割合					
	指導教員による全体評価		他の教員による報告書の評価	合計	
総合評価割合	70		30	100	
基礎的能力	0		0	0	

専門的能力	70	30	100
分野横断的能力	0	0	0